

土壌微生物の多様性、活性値を高める

環境に負荷をかけない安心・安全の循環型生竹土壌改良材



貯竹で使えば使うほど
地力が高まり土壌が
豊かになる

あなたは竹何年?

Q なぜ“ロマン竹ツク”を使うのですか?

A 未利用資源を植物が吸収しやすい状態にするためです

自然界では落葉や枯葉が、土表面上で腐っていき草木の栄養分になります。私たちはその落葉や枯葉の、代わりの材料として身近にある竹などの未利用資源を使っています（資源循環の考え方）。ただ、未利用資源はそのままではなかなか腐らないので、繊維をほぐす機械（繊維機）に通して柔らかく、腐りやすい“ロマン竹ツク”の形にしているのです。



Q “ロマン竹ツク”を使うと、どんな良いことがあるのですか?

A1 病原菌を殺す効果があります

土の上で腐るときに土壌殺菌の作用が起こります（青カビからペニシリンを産生）。その働きによって、土中に存在する病原菌を殺すことができるので農薬を施用しない農業が目指せるのです。実は自然界（野山など）が、農薬を施用しなくても、毎年植物が元気に育っているのは、落葉や枯葉のおかげなのです。

A2 空気中の窒素を肥料として使います

“解繊パウダー”は柔らかくほぐれているだけでなく、たくさんの小さなトゲ（微繊維またはフィブリル）が出ています。このトゲが空気中の約80%もある、“窒素”をからめて引き寄せます。自然界の窒素成分を引き寄せるので肥料は少なめでも、きちんと育つことができます（自然界の草木が肥料をやらなくても生育している理由）。

A3 微生物を増やし、肥料成分吸収を助けます

“ロマン竹ツク”の栄養分のおかげで、微生物が増殖します。そして増えた微生物が土中の肥料成分を分解して、植物の根から吸収しやすい形にしてくれます。

A4 繊維分が、土の通気性を改善します

“解繊パウダー”には繊維分（ストローみたいな形）があり、土の通気を良くしてくれるので、根に空気が行きわたりやすくなり、植物が元気に育ちます（繊維管内は微生物の棲家となり、増殖に役立つ）。

A5 作物本来の食味を引きだせます

根を張る場所が、地中深くから地表面近くに変わるので、吸収する栄養成分が変わります。そのためエグ味の少ない、優しい作物本来の味を感じることができます（エグ味の原因である硝酸態窒素の含有量が減る）。



まだ
知られていない
八百(YAO)の
本来の美味しさを
届けたい

竹繊維から生まれたサステイナパウダー

「ロマン竹ツク」



細かい竹繊維には栽培に欠かせない
微生物の最良の住み家に



防草効果抜群で、且つ堆肥の
臭いを抑制する消臭効果も



硝酸態窒素が少なくエグ味や
苦味を抑え野菜本来の
甘みを引き出す



土壌の中に漉き込む
必要はなく表面に巻く
ただけで十分な効果



野菜の繊維が細くなり
熱の通りが早いため料理しやすい



地域の困りごとに着目し
栽培の困りごとまで解決する

無農薬なのにコスト手間リスクを減らせる実証済み最新農法

バイオスティミュラント資材



株式会社 四国クオリティ
受付時間 9:00~15:00
TEL (0896) 72-6002

お気軽にお問い合わせください
☎ 090-4789-8872



「ロマン竹ツク」とは

実は化学肥料不使用でも野菜を作れます 化学肥料を使わないという選択

その秘密はコレ！

他にはない
綿状パウダー



利用者様のメリット

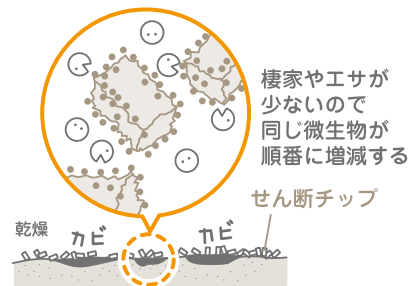
農作物の食味・品質・耐病性が向上し、無農薬で自然の育て方ができた 撒くだけ簡単でした



せん断チップとロマン竹ツクの違い

荒い

せん断チップを撒くと



ティッシュ断面

ティッシュをはさみで切ったときのようなキレイな断面になる = 微生物が棲みつくとことのできる表面積が少ないため、分解が遅い

細かい

ロマン竹ツクを撒くと



ティッシュ断面

ティッシュを手でちぎったときのようなバラバラにほぐれた断面になる = 微生物がエサにしやすい

実証

多様な微生物が多く棲みつ く **ロマン竹ツク**

微生物が活性化すると濃い紫色に変色するテストの結果、48時間後のプレート発色状態

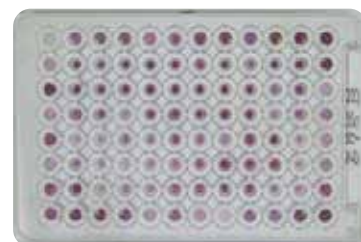
化学肥料のみの慣行区



牛糞堆肥施用区



生の竹パウダー施用区



牛糞堆肥よりも微生物が増えやすい！

「ロマン竹ツク」使用方法

たね
からの場合

(1) 地表面に**ロマン竹ツク**を撒く

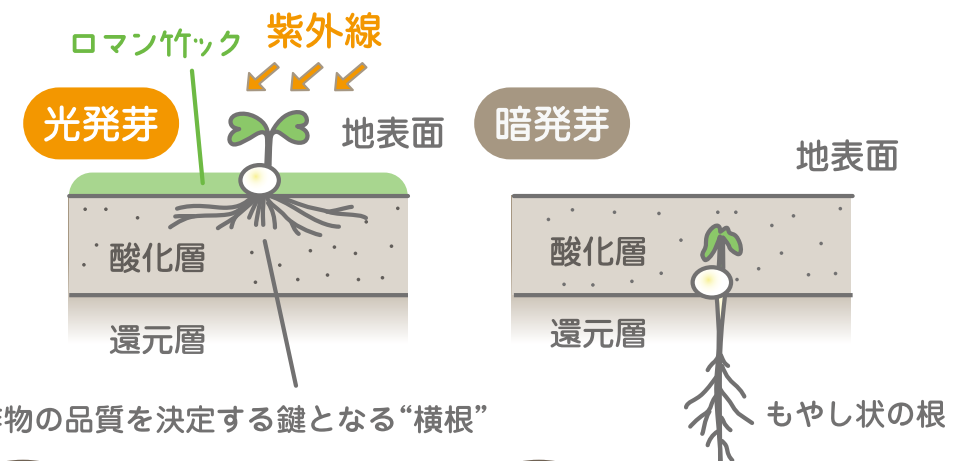
農業の原点は地表面の落葉、枯葉の利用です。そこでロマン竹ツクを地表面に撒いて、酸化層をつくり、自然界のサイクルを再現します。

(2) 土中に肥料を入れない

自然界では、肥料が自ら土中に入ることはないので、土中には肥料を入れません。

(3) 土中に種子を入れない(光発芽)

自然界では、種子の発芽は地表面酸化層で行われます。そこでロマン竹ツクを、播種時に透過性のある覆土として使い“光発芽”させます



なえ
からの場合



・苗の高さと同じくらいの間隔をあけて散布
・うねの上部分の土が見えなくなる程度

かじゅ
からの場合



・下の土が見えなくなる程度

追加散布

竹綿が約2〜3ヶ月くらいで分解されますので下の土が見えたら散布しますパウダー(粉)と違い、一度水やりをすれば竹綿が絡み飛散しにくくなります



使用目安 200〜300g/ m²
200〜300kg/1 反 (10a)

5 cm以上の過度な使用はお控えください